

1

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

◆学習のねらい

自分と異なる思いや考えを大切にする態度を育てる。

◆評価

自分と異なる思いや考えを大切にし、互いに理解しようとする気持ちをもつことができたか。

◆教育課程における位置付け

特別の教科 道徳（相互理解、寛容）

◆主な使用教材

・「ぼくらのビー玉コースター」（東京都教育委員会『小学校版 東京都道徳教育教材集』）

展開例

	学習活動（◇教師の発問例）	○指導上の留意点
導入 5分	1 意見がまとまらなかったときの生活経験を想起する。 ◇ 何人かの友達で何かをしようとしたとき、困ったことはありますか。	○ 道徳的価値に対する問題意識をもたせる。
展開 35分	2 教材「ぼくらのビー玉コースター」を読み、話し合う。 ◇ たかしはどんな気持ちで、さとるややす子に意見を言っているのでしょうか。 ◇ たかしの言葉や態度から、さとる、やす子、よし美たちはどんなことを思っているのでしょうか。 <b>【中心発問】 みんなで一つの作品を作ることの難しさはどこにあるのでしょうか。</b>	○ 自分の考えだけを尊重し、相手の考えは受け入れようとしないうたかしの態度について考えさせる。 ○ 思いや考えは人それぞれに異なることを理解し、受け入れようとする気持ちをもつことの大切さに気付かせる。
終末 5分	3 話し合いを終え、今日の学習で気付いたことや考えたことを発表する。	○ 本時の学習を通して、気付いたことや考えたことをペアで交流させる。

板書例

○ みんなで一つの作品を作ることのむずかしさはどこにあるのだろうか。

- ・ みんなよいものを作りたい気持ちには同じだ。
- ・ 一人一人の考えはちがうから、だれかの意見で作るしかない。
- ・ 自分の意見をおしとおすことはまちがっている。
- ・ 友だちの考えをよく聞き合うことが大切だと思う。

ぼくらのビー玉コースター

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

互いの個性の理解

望ましい人間関係の構築

規範意識の醸成

教員研修プログラム

いじめ問題への対応事例